

財務の状況

中間財務諸表

中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2019年度中間期 2019年9月30日	2020年度中間期 2020年9月30日
【資産の部】		
現金預け金	537,956	912,134
商品有価証券	451	374
金銭の信託	7,022	7,016
有価証券	1,281,574	1,450,738
貸出金	4,334,503	4,452,554
外国為替	7,801	29,738
その他資産	69,361	69,081
その他の資産	69,361	69,081
有形固定資産	58,217	56,922
無形固定資産	6,410	5,464
前払年金費用	4,749	5,726
支払承諾見返	17,040	15,838
貸倒引当金	△21,797	△23,193
資産の部合計	6,303,291	6,982,396

(単位：百万円)

科目	2019年度中間期 2019年9月30日	2020年度中間期 2020年9月30日
【負債の部】		
預金	5,566,757	5,953,732
譲渡性預金	68,250	50,800
売現先勘定	169,301	126,621
借入金	78,849	430,572
外国為替	1,638	1,162
その他負債	18,022	19,463
未払法人税等	2,260	3,655
資産除去債務	217	206
その他の負債	15,544	15,601
賞与引当金	1,215	1,151
退職給付引当金	6,172	6,134
睡眠預金払戻損失引当金	526	449
偶発損失引当金	716	688
繰延税金負債	17,655	14,841
再評価に係る繰延税金負債	7,126	7,083
支払承諾	17,040	15,838
負債の部合計	5,953,274	6,628,539
【純資産の部】		
資本金	36,839	36,839
資本剰余金	47,829	47,828
資本準備金	47,815	47,815
その他資本剰余金	14	13
利益剰余金	192,474	203,310
利益準備金	20,154	20,154
その他利益剰余金	172,319	183,156
固定資産圧縮積立金	0	0
別途積立金	162,700	172,700
繰越利益剰余金	9,619	10,455
自己株式	△1,559	△1,537
株主資本合計	275,583	286,441
その他有価証券評価差額金	60,258	53,263
繰延ヘッジ損益	—	△33
土地再評価差額金	14,026	14,024
評価・換算差額等合計	74,285	67,254
新株予約権	149	161
純資産の部合計	350,017	353,856
負債及び純資産の部合計	6,303,291	6,982,396

中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	2019年度中間期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)	2020年度中間期 (2020年4月1日から 2020年9月30日まで)
経常収益	37,671	39,533
資金運用収益	28,491	25,891
(うち貸出金利息)	19,622	19,360
(うち有価証券利息配当金)	8,665	6,337
役務取引等収益	7,893	7,255
その他業務収益	863	2,955
その他経常収益	424	3,430
経常費用	28,503	28,236
資金調達費用	1,709	344
(うち預金利息)	359	231
役務取引等費用	2,579	2,754
その他業務費用	969	1,132
営業経費	21,367	20,525
その他経常費用	1,876	3,480
経常利益	9,168	11,296
特別利益	1	—
特別損失	24	134
税引前中間純利益	9,144	11,162
法人税、住民税及び事業税	2,498	3,696
法人税等調整額	143	△127
法人税等合計	2,641	3,568
中間純利益	6,503	7,593

中間株主資本等変動計算書

2019年度中間期(2019年4月1日から2019年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	36,839	47,815	12	47,827	20,154	0	154,700	12,414	187,270
当中間期変動額									
固定資産圧縮積立金の取崩						△0		0	—
別途積立金の積立							8,000	△8,000	—
剰余金の配当								△1,307	△1,307
中間純利益								6,503	6,503
自己株式の取得									
自己株式の処分				1	1				
土地再評価差額金の取崩								8	8
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)									
当中間期変動額合計	—	—	1	1	—	△0	8,000	△2,795	5,204
当中間期末残高	36,839	47,815	14	47,829	20,154	0	162,700	9,619	192,474

	株主資本		評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△1,585	270,351	53,470	14,035	67,505	159	338,017
当中間期変動額							
固定資産圧縮積立金の取崩							—
別途積立金の積立							—
剰余金の配当		△1,307					△1,307
中間純利益		6,503					6,503
自己株式の取得	△1	△1					△1
自己株式の処分	27	29					29
土地再評価差額金の取崩		8					8
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)			6,788	△8	6,779	△10	6,768
当中間期変動額合計	25	5,231	6,788	△8	6,779	△10	12,000
当中間期末残高	△1,559	275,583	60,258	14,026	74,285	149	350,017

2020年度中間期(2020年4月1日から2020年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	36,839	47,815	13	47,828	20,154	0	162,700	14,643	197,498
当中間期変動額									
固定資産圧縮積立金の取崩						△0		0	—
別途積立金の積立							10,000	△10,000	—
剰余金の配当								△1,681	△1,681
中間純利益								7,593	7,593
自己株式の取得									
自己株式の処分				△0	△0				
土地再評価差額金の取崩								△99	△99
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)									
当中間期変動額合計	—	—	△0	△0	—	△0	10,000	△4,187	5,812
当中間期末残高	36,839	47,815	13	47,828	20,154	0	172,700	10,455	203,310

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△1,553	280,612	39,799	△174	13,925	53,550	160	334,323
当中間期変動額								
固定資産圧縮積立金の取崩								—
別途積立金の積立								—
剰余金の配当		△1,681						△1,681
中間純利益		7,593						7,593
自己株式の取得	△0	△0						△0
自己株式の処分	17	17						17
土地再評価差額金の取崩		△99						△99
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)			13,464	140	99	13,703	0	13,704
当中間期変動額合計	16	5,828	13,464	140	99	13,703	0	19,533
当中間期末残高	△1,537	286,441	53,263	△33	14,024	67,254	161	353,856

当行は金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、四半期報告書に記載された中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

財務の状況

注記事項 (2020年度中間期)

(重要な会計方針)

1. 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

2. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、運用目的の金銭の信託については時価法、その他の金銭の信託については上記(1)のうちのその他有価証券と同じ方法により行っております。

3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

有形固定資産の減価償却は、定率法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物：15年～50年

その他：4年～20年

(2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号2020年10月8日。以下、「銀行等監査特別委員会報告第4号」という。）に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権のうち、銀行等監査特別委員会報告第4号に規定する要管理先債権については今後3年間の予想損失額、その他の債権については今後1年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、3年間又は1年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求めて算定しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

また、破綻懸念先及び要注意先で、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額が一定額以上の債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）

により計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産査定管理部署が査定結果を検証のうえ内部監査部署が監査を実施しております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う経済への影響は、当事業年度末にかけて緩やかに収束するものと想定し、債務者によってその程度は異なるものの、当該想定範囲で当行の貸出金等の信用リスクに影響があるとの仮定に基づいて、債務者区分を判定し貸倒引当金を計上しております。なお、当該仮定については、前事業年度の有価証券報告書における「貸倒引当金の計上基準」の（追加情報）に記載した内容から重要な変更はありません。また、当該仮定は不確実であり、新型コロナウイルス感染状況やその経済への影響が変化した場合、損失額が増減する可能性があります。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（3年）による定額法により費用処理

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から費用処理

(追加情報)

当行は、2020年10月1日付で、確定給付型企業年金制度について給付利率の引下げ等の改訂を実施しております。また、改訂に伴う規程、規約の変更の周知を2020年7月10日付で実施しております。

改訂に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号2016年12月16日）及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第2号2007年2月7日）を適用しております。

これに伴い、過去勤務費用（退職給付債務の減額）が4,408百万円発生し、2020年7月より費用処理（費用の減額）を行っております。

(4) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止し、利益計上を行った預金の預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績等に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

(5) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

7. ヘッジ会計の方法

金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号2002年2月13日）に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる有価証券等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。

8. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、中間連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

(中間貸借対照表関係)

1. 関係会社の株式又は出資金の総額

株式	15,708百万円
出資金	782百万円

2. 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

60,684百万円

3. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額	2,376百万円
延滞債権額	62,072百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

4. 貸出金のうち3ヶ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3ヶ月以上延滞債権額	141百万円
------------	--------

なお、3ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3ヶ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額	2,835百万円
-----------	----------

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶

予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。

6. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額	67,425百万円
-----	-----------

なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号2002年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

12,233百万円

8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	631,334百万円
その他の資産	62百万円
計	631,396百万円

担保資産に対応する債務

預金	89,077百万円
売現先勘定	126,621百万円
借入金	430,572百万円

上記のほか、その他の資産には、先物取引差入証拠金、金融商品等差入担保金、保証金及び中央清算機関差入証拠金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

先物取引差入証拠金	400百万円
金融商品等差入担保金	352百万円
保証金	1,604百万円
中央清算機関差入証拠金	51,849百万円

9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	1,354,473百万円
うち原契約期間が1年以内のもの （又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）	1,316,903百万円

上記融資未実行残高のうち総合口座取引に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

うち総合口座取引に係る 融資未実行残高	569,826百万円
------------------------	------------

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

10. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

57,747百万円

財務の状況

(中間損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。
株式等売却益 2,903百万円
2. 減価償却実施額は次のとおりであります。
有形固定資産 706百万円
無形固定資産 642百万円
3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。
貸倒引当金繰入額 2,543百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	—	—	—
合計	—	—	—

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の中間貸借対照表計上額

(単位：百万円)

子会社株式及び出資金	16,485
関係会社株式	—
合計	16,485

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(企業結合等関係)

「中間連結財務諸表」の「(企業結合等関係)」における記載内容と同一であるため、記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

資本・株式等

資本金・発行済株式総数の推移

	2018年度中間期末	2018年度末	2019年度中間期末	2019年度末	2020年度中間期末
資本金(百万円)	36,839	36,839	36,839	36,839	36,839
発行済株式総数(千株)	37,924	37,924	37,924	37,924	37,924

株式の所有者別状況

(2020年度中間期末現在)

	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況
	政府および 地方公共団体	金融 機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	42	27	1,294	159	2	13,131	14,655	—
所有株式数(単元)	—	122,646	13,193	111,602	38,366	27	90,152	375,986	325,534株
割合(%)	—	32.62	3.51	29.68	10.20	0.01	23.98	100.00	—

大株主(上位10名)

(2020年度中間期末現在)

株主名	所有株式数	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有株式数の割合
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,319千株	6.20%
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	1,383	3.70
十六銀行従業員持株会	1,138	3.04
SMB C日興証券株式会社	1,095	2.93
株式会社三菱UFJ銀行	1,019	2.72
フジパングループ本社株式会社	959	2.56
明治安田生命保険相互会社	925	2.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	910	2.43
損害保険ジャパン株式会社	863	2.31
東京海上日動火災保険株式会社	592	1.58
計	11,207	29.98

従業員の状況

(各期末現在)

	2018年度中間期	2019年度中間期	2020年度中間期	2018年度	2019年度
人 員	3,129人	2,932人	2,795人	2,987人	2,813人
平均年齢	40才10か月	41才7か月	42才6か月	41才5か月	42才1か月
平均勤続年数	17年11か月	18年8か月	19年2か月	18年6か月	19年2か月
平均給与月額	383千円	386千円	384千円	379千円	383千円

(注) 1. 嘱託、臨時職員および海外の現地採用者は、上記人員には含まれておりません。
2. 平均給与月額は、期末月の時間外手当を含む平均給与月額であり、賞与は含んでおりません。

業績ハイライト

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

連結情報

財務の状況

業務の状況

自己資本の充実の状況等について

財務の状況

各種指標等

主要な経営指標等

(単位：百万円)

	2018年度中間期	2019年度中間期	2020年度中間期	2018年度	2019年度
経常収益	37,430	37,671	39,533	76,551	76,672
経常利益	7,251	9,168	11,296	14,606	18,508
中間純利益	5,227	6,503	7,593		
当期純利益				9,977	12,733
純資産	334,207	350,017	353,856	338,017	334,323
総資産	6,243,573	6,303,291	6,982,396	6,317,155	6,421,725
預金残高	5,526,077	5,566,757	5,953,732	5,504,225	5,625,738
貸出金残高	4,327,947	4,334,503	4,452,554	4,332,778	4,376,759
有価証券残高	1,389,745	1,281,574	1,450,738	1,350,520	1,262,956
1株当たり配当額	35.00円	35.00円	35.00円	70.00円	80.00円
自己資本比率	5.3%	5.5%	5.0%	5.3%	5.2%
単体自己資本比率 (国内基準)	8.50%	8.59%	9.05%	8.49%	8.71%
従業員数 (外、平均臨時従業員数)	2,603人 (736)	2,374人 (707)	2,257人 (658)	2,480人 (728)	2,263人 (693)

- (注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2. 2018年度まで「その他経常収益」に計上してありました保険の受取配当金の一部については、2019年度中間期より「役員取引等費用」及び「営業経費」に計上しており、2018年度中間期及び2018年度の計数の組替えを行っております。
 3. 2019年度の1株当たり配当額80円には、特別配当10円を含んでおります。
 4. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末新株予約権)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。
 5. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。

リスク管理債権

(単位：百万円)

	2019年度中間期末	2020年度中間期末
破綻先債権額	3,184	2,376
延滞債権額	58,500	62,072
3ヵ月以上延滞債権額	213	141
貸出条件緩和債権額	1,992	2,835
合計	63,891	67,425

利益率

(単位：%)

	2019年度中間期	2020年度中間期
総資産経常利益率	0.29	0.33
自己資本経常利益率	6.35	7.55
総資産中間純利益率	0.20	0.22
自己資本中間純利益率	4.50	5.07

- (注) 1. 総資産経常(中間純)利益率 = $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times \frac{365}{\text{期中日数}} \times 100$
 2. 自己資本経常(中間純)利益率 = $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{純資産勘定(除く新株予約権)平均残高}} \times \frac{365}{\text{期中日数}} \times 100$

預貸率、預証率

(単位：%)

	2019年度中間期			2020年度中間期			
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	
預貸率	期末	76.60	132.52	76.92	73.97	109.78	74.15
	期中平均	76.45	143.26	76.79	74.43	126.21	74.69
預証率	期末	18.00	867.87	22.74	20.31	776.07	24.16
	期中平均	18.50	919.17	23.19	18.41	820.57	22.48

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

損益の状況

国内・国際業務部門別粗利益

(単位：百万円)

	2019年度中間期			2020年度中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用収支	24,717	2,064	26,781	23,451	2,095	25,547
役員取引等収支	5,257	56	5,313	4,456	44	4,500
その他業務収支	△154	48	△106	△664	2,488	1,823
業務粗利益	29,820	2,168	31,988	27,243	4,628	31,871
業務粗利益率	1.05%	1.35%	1.09%	0.93%	3.14%	1.05%

(注) 1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めておりません。

$$2. \text{業務粗利益率} = \frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times \frac{365}{\text{期中日数}} \times 100$$

業務純益

(単位：百万円)

	2019年度中間期	2020年度中間期
業務純益	10,534	10,725
実質業務純益	10,517	11,140
コア業務純益	10,661	9,735
コア業務純益(投資信託解約損益を除く)	10,514	9,451

用語説明

業務純益

資金利益・役員取引等利益・その他業務利益の合計から、経費・一般貸倒引当金繰入額を控除したものです。

実質業務純益

業務純益から、一般貸倒引当金繰入額を控除したものです。

コア業務純益

業務純益から、一般貸倒引当金繰入額・国債等債券損益を控除したものです。

コア業務純益(投資信託解約損益を除く)

コア業務純益から、投資信託解約損益を控除したものです。

利回り、利鞘

(単位：%)

	2019年度中間期			2020年度中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用利回り	0.88	2.17	0.97	0.81	1.51	0.85
資金調達原価	0.74	1.23	0.77	0.66	0.46	0.66
総資金利鞘	0.14	0.94	0.20	0.15	1.05	0.19

資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

(単位：百万円)

	2019年度中間期			2020年度中間期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
国内業務部門						
資金運用勘定	5,623,771	25,023	0.88%	5,822,645	23,668	0.81%
うち貸出金	4,261,669	19,115	0.89%	4,370,906	19,087	0.87%
うち有価証券	1,031,352	5,738	1.10%	1,081,309	4,400	0.81%
資金調達勘定	5,708,004	305	0.01%	6,120,105	216	0.00%
うち預金	5,497,198	287	0.01%	5,811,005	184	0.00%
うち譲渡性預金	77,117	8	0.02%	61,272	4	0.01%
国際業務部門						
資金運用勘定	318,601	3,477	2.17%	293,500	2,226	1.51%
うち貸出金	41,820	507	2.42%	37,820	273	1.44%
うち有価証券	268,306	2,924	2.17%	245,893	1,936	1.57%
資金調達勘定	322,041	1,413	0.87%	297,163	130	0.08%
うち預金	29,189	72	0.49%	29,965	46	0.30%
うち譲渡性預金	—	—	—	—	—	—

財務の状況

受取・支払利息の増減

(単位：百万円)

	2019年度中間期			2020年度中間期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	202	1,192	1,395	864	△2,219	△1,354
国内業務部門						
うち貸出金	324	△531	△207	487	△515	△27
うち有価証券	△109	1,725	1,615	266	△1,604	△1,338
支払利息	11	△198	△187	16	△105	△89
うち預金	3	△188	△185	14	△117	△102
うち譲渡性預金	0	△1	△1	△1	△2	△3
国際業務部門						
受取利息	448	△385	63	△256	△994	△1,250
うち貸出金	△35	54	19	△44	△189	△234
うち有価証券	520	△474	46	△228	△760	△988
支払利息	196	△261	△64	△101	△1,181	△1,282
うち預金	△10	△11	△22	1	△27	△25
うち譲渡性預金	—	—	—	—	—	—

役務取引の状況

(単位：百万円)

	2019年度中間期			2020年度中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
役務取引等収益	7,741	151	7,893	7,128	127	7,255
うち預金・貸出業務	1,388	3	1,391	1,481	2	1,483
うち為替業務	2,208	131	2,340	2,156	112	2,268
うち証券関連業務	952	—	952	856	—	856
役務取引等費用	2,483	95	2,579	2,672	82	2,754
うち為替業務	401	41	442	376	34	411

その他業務利益の内訳

(単位：百万円)

	2019年度中間期	2020年度中間期
国内業務部門	△154	△664
うち商品有価証券売買損益	△4	△1
うち国債等債券関係損益	△151	△778
うち金融派生商品損益	0	115
うちその他	—	—
国際業務部門	48	2,488
うち外国為替売買損益	338	543
うち国債等債券関係損益	7	2,183
うち金融派生商品損益	△297	△238
うちその他	—	—
合計	△106	1,823

営業経費の内訳

(単位：百万円)

	2019年度中間期	2020年度中間期
給料・手当	8,831	8,211
退職給付費用	473	211
福利厚生費	91	415
減価償却費	1,522	1,363
土地建物機械賃借料	776	786
営繕費	45	42
消耗品費	196	208
給水光熱費	199	184
旅費	29	8
通信費	379	390
広告宣伝費	296	257
諸会費・寄付金・交際費	217	203
租税公課	1,478	1,544
その他	6,829	6,696
合計	21,367	20,525